

機械 VS 人間!?

寄稿 / 仙石誠 (東海東京調査センター マーケットアナリスト)

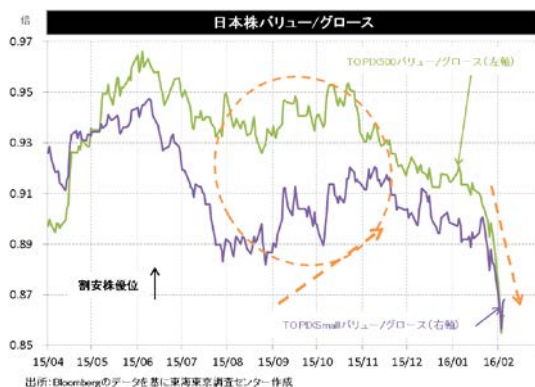
割安株が弱い

1月29日、日本銀行が初のマイナス金利導入を発表した。投資家の不安心理を払拭し、日本株も上昇基調に転じると思われたが、未だ日経平均株価は17,000円を割り込んだ水準である(2月5日時点)。投資家の不安心理が払拭されない要因の1つにバリュウ(割安)株が弱いことが挙げられる。図表1はバリュウ指数とグロース(成長)指数とを比較したのだが、足元ではバリュウ指数の弱さが鮮明だ。通常、下落から反発する局面では、割安株が物色され、株価が反転する傾向が見られる。昨年の秋口も相対的にバリュウ指数が強くなり、その後、12月に日経平均株価が20,000円まで回復した。マイナス金利導入により、業績の先行き不安が高まった銀行株や、決算が市場予想を下回った企業の株価の中に急落する銘柄が相次いでいるが、その中にはPER(株価収益率)やPBR(株価純資産倍率)等で見ても、すでに割安な水準まで下落している企業が目立つ。割安な銘柄がさらに大幅安となることで、投資家が何を基準に割高・割安を判断すればいいのか、迷ってしまっているようだ。割安株の反発が相場の転換点を示す可能性が高い。

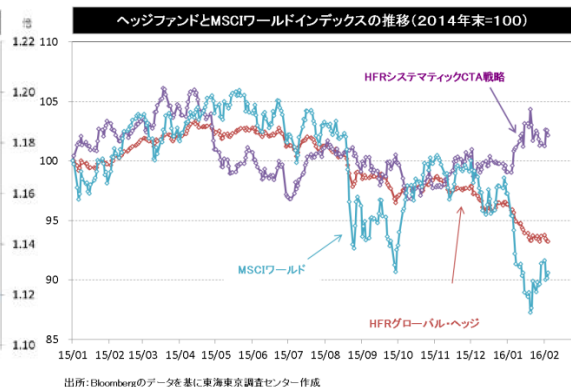
機械による運用パフォーマンスが良い

年初から世界的なリスク資産が大きく下落した。そんな中、パフォーマンスが堅調なヘッジファンドがある。名前はシステムティックCTA戦略だ。簡単に言うと、機械が投資判断を下し、投資を実行するヘッジファンドである。世界全体の株式市場の動きを表すMSCIワールド・インデックスが下落する中、パフォーマンスを稼いでおり、先物売りや空売り等で運用している可能性が高い(図表2)。日本で割安株に空売り等を仕掛けているのも、機械によるヘッジファンドの可能性もある。決算発表で今後の見通しを下方修正した企業の株価が目にも止まらぬ早さで10%下落する動きは人間が判断出来るようなスピードではない。今のマーケットは、機械VS人間の戦いになっているのかもしれない。

《図表1:日本株バリュウ/グロース》



《図表2:ヘッジファンドとMSCIワールドの推移》



この資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。情報の正確性には万全を期しておりますが、その正確性・完全性・将来の運用成果の予測等を保証するものではありません。これらの情報によって生じたいかなる損害についても、情報提供会社等および当社は一切の責任を負いません。資産運用の際にはお客様の責任において最終的にご判断ください。この資料は、第三者への提供を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用等させることはできません。

金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料等（国内株式取引の場合は約定代金に対して上限 1.242%（税込）（ただし、最低手数料 2,700 円（税込））の委託手数料、投資信託の場合は銘柄ごとに設定された販売手数料及び信託報酬等の諸経費、等）をご負担いただく場合があります。金融商品等には株式相場、金利水準の変動等による「市場リスク」、金融商品等の発行者等の業務や財産の状況等に変化が生じた場合の「信用リスク」、外国証券である場合には、「為替変動リスク」等により損失が生じるおそれがあります。さらに、新株予約権等が付された金融商品等については、これらの「権利を行使できる期間の制限」等があります。なお、信用取引又はデリバティブ取引を行う場合には、その損失の額がお客様より差入れいただいた委託保証金又は証拠金の額を上回るおそれがあります。手数料等およびリスクは、金融商品等ごとに異なりますので、契約締結前交付書面や上場有価証券等書面または目論見書等をよくお読みください。

東海東京証券の概要

商号等 : 東海東京証券株式会社 金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第 140 号
加入協会 : 日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会